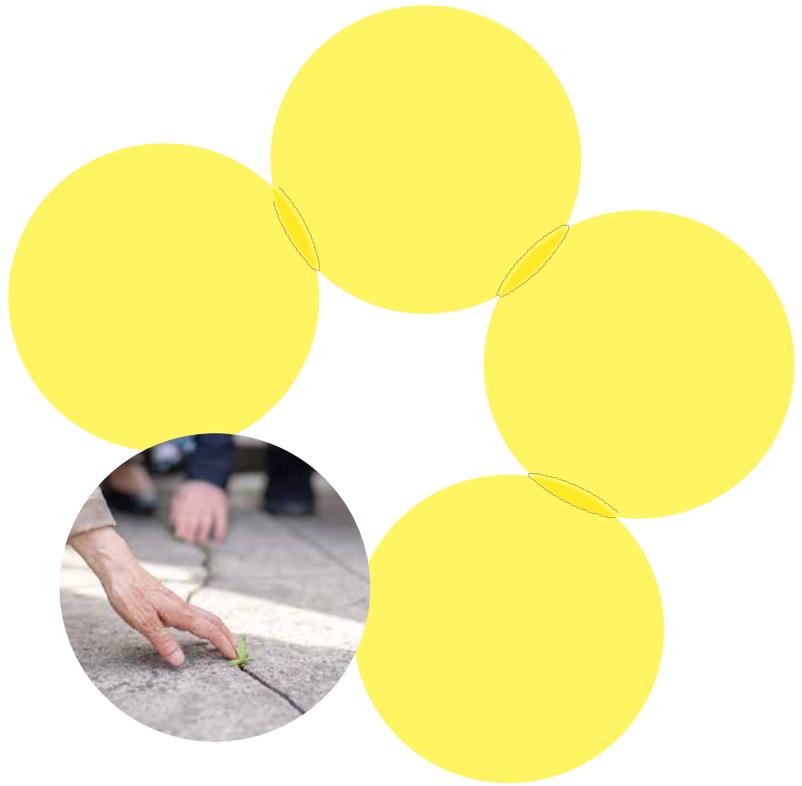


感覚をひらく・ 想像をふくらませる

～「無視覚流」両国まちあるきと、対話型鑑賞で楽しむ北斎～

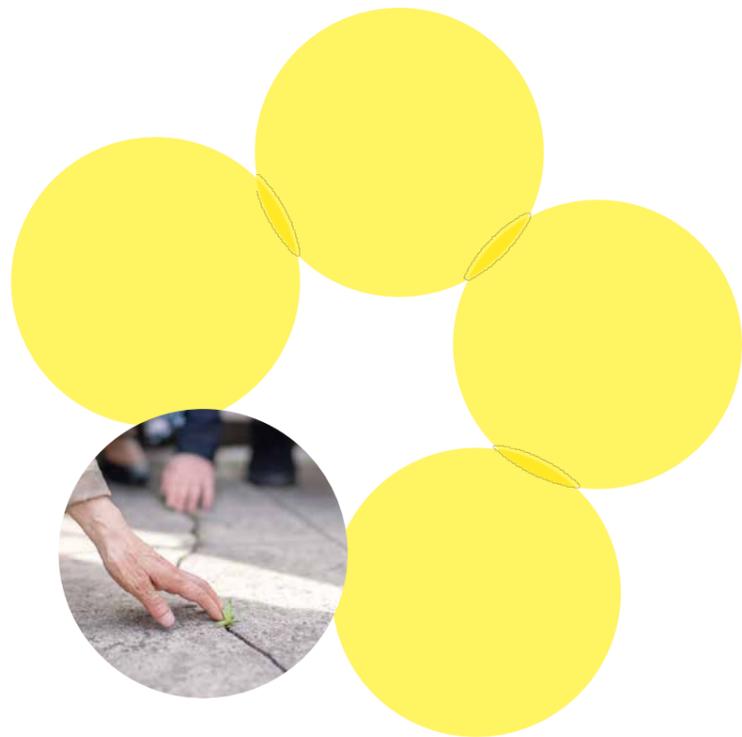
2018年3月24日・3月25日 ● すみだ北斎美術館





すみだ北斎美術館

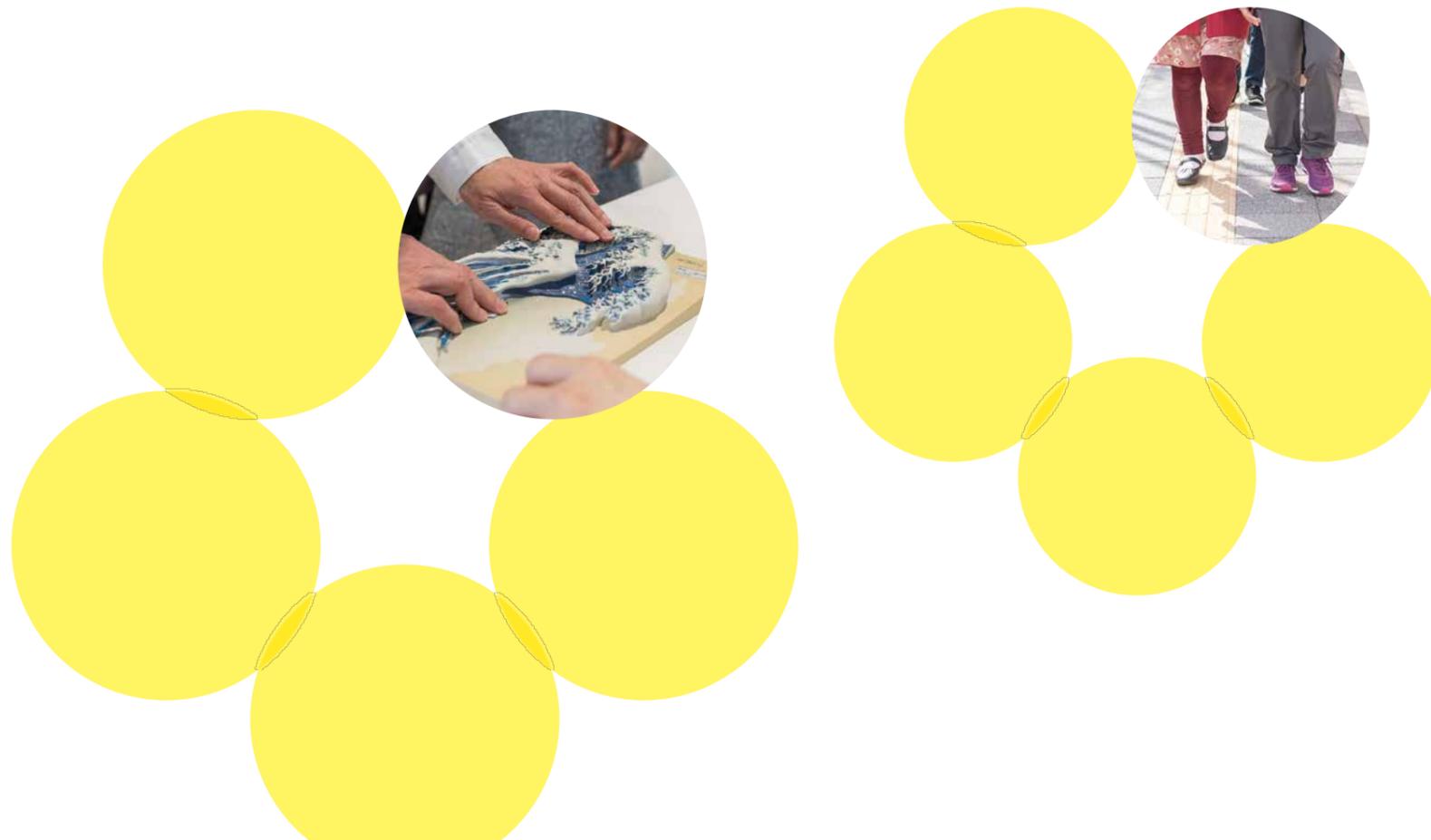




感覚をひらく・ 想像をふくらませる

～「無視覚流」両国まちあるきと、対話型鑑賞で楽しむ北斎～

2018年3月24日・3月25日 ● すみだ北斎美術館



3月24日(土)

「無視覚流」
両国まちあるき

参加者30名(うち視覚障害者6名)



3月25日(日)
「対話型鑑賞」で
楽しむ北斎

第1回:参加者23名(うち視覚障害者5名)
第2回:参加者28名(うち視覚障害者5名)

感覚をひらく・ 想像をふくらませる

～「無視覚流」両国まちあるきと、対話型鑑賞で楽しむ北斎～

いつもは視覚情報を頼りに歩いている両国のまちを、今回は「無視覚流」の達人、広瀬浩二郎さんと一緒に視覚を使わずに散策します。道の凸凹に慎重に足を運びながら、聴覚や嗅覚をフルに働かせると、陽射しのぬくもりや、風が運ぶ匂いや音を感じ取り、普段は気づいていないまちの姿に出会えます。さらに、暗闇でのランチで味や歯ごたえに集中し、見えることで閉ざしていた感覚をひらいていきます。

そして、すみだ北斎美術館では、視覚障害者とともに葛飾北斎の作品を楽しむ「対話型鑑賞」を試みます。画面に描かれている情景や作品から得た印象を言葉に置き換えて、より深く、想像力もたくましく、参加者それぞれに北斎が捉えた森羅万象に迫ります。

自らの感覚を研ぎ澄まし、他者の感性を受入れながら、お互いの差異を超えたコミュニケーションをはかる2日間のプログラムです。

主催:墨田区

企画運営:公益財団法人墨田区文化振興財団
企画監修:広瀬浩二郎

協力:北斎通りまちづくりの会、BonNumatta、
「隅田川 森羅万象 墨に夢」実行委員会

Contents

| | |
|-------|-------------------------|
| 02～03 | 実施概要 |
| 04～05 | 講義:感覚をひらく、まちあるき探検 |
| 06～07 | ブラインド・ランチ / 「点」の準備体操 |
| 08～09 | さあ、出かけよう! 「無視覚流」両国まちあるき |
| 10～13 | 「対話型鑑賞」で楽しむ北斎 |
| 14～15 | 地域と一緒につくったイベント |

「視覚を使わない」と、 感じられるものがある。

3月24日(土) ● 11:00~12:00



講師：広瀬浩二郎

自称「座頭市流フィールドワーカー」、または「琵琶を持たない琵琶法師」。
1967年、東京都生まれ。13歳の時に失明。筑波大学附属盲学校から京都大学に進学。
2000年、同大学院にて文学博士号取得。専門は日本宗教史、触文化論。
01年より国立民族学博物館に勤務。現在はグローバル現象研究部・准教授。
「ユニバーサル・ミュージアム」(誰もが楽しめる博物館)の実践的研究に取り組み、
“さわる”をテーマとする各種イベントを全国で企画・実施している。
最新刊の「目に見えない世界を歩く」(平凡社新書)など著書多数。

「音」だけ聴いていると まちの中に入り込んだ気がする

普段、目が見えない人は本を音声で聴いています。最大の魅力は、スピードを変えて聴けること。1.4倍ぐらいですから、目で見ると同じぐらいのスピードで聴けます。カセットブックやオーディオブックは、アメリカなどでは一定のシェアがあり、車に乗っているときに聴いたりします。目が見えないから聴くのではなく、耳が読書をするということをしています。読み上げているのを聴いたほうが、よりリアリティがあると思います。

最近ではシネマ・デイズという、映画を音だけで楽しむものがあります。スマートフォンのアプリで副音声で「いま、どういう場面です」という解説を、映画の台詞や音声の間にうまく入れていきます。いわばラジオドラマみたいなものです。ラジオドラマと映画の違いは何かというと、視覚は離れたところから情報が入るので、まちを歩いている、外から見ているような感覚になります。映画もそうだと思います。しかし音だけで聴いていると、まちの中に入り込んでいるような気がします。ラジオドラマは視

覚情報がないので、そのぶん、音で想像する。今日のテーマですが、感覚を開く、想像をふくらませるということと言うと、音から自分の中でいろいろな世界を広げていく。そして、同じ場面に自分がいるという感覚が味わえると思います。

大阪の国立国際美術館の開館40周年記念展で、音だけを使った作品が展覧されました。視覚障害者向けというわけではなく、美術館で視覚を使わず音だけで感じてもらうという逆転の発想です。カナダのアーティストで、大阪の文楽、芸能、市場など、とにかくいろいろな音を録音していました。僕も少しだけ協力をして、いつもの公園を歩いている様子を録音しました。こうして大阪で録った音を組み合わせるような作品です。入口でiPhoneを渡され、ヘッドフォンをして中に入ります。歩いていくとセンサーに反応して音が流れます。その場所で立ち止まると、文楽なら文楽をずっと聴けます。ゆっくり歩いてじっくり聴くこともできるし、サッと歩くことでいろいろな音が重層的にも聞こえる。行きと帰りで音の順番が変わるので、その違いを楽しむこともできます。作品の中で「本日もご来

園いただきまして、ありがとうございます」という放送が流れ、僕自身が本当に美術館で流れている音だと勘違いしました。まさにいまその場にいるような感じを味わえました。そういう「音」というものに注目していただきたい、というのが、まちあるきのひとつのポイントです。

では、アイマスクをつけてください。単純な音を聴いてもらいます。ペルーとチリの民族楽器ですが、サボテンの莖の中に、石や砂を入れて、傾けて音をさせると「雨」に聞こえます。ゆっくり振ると小雨のように感じられます。皆さん、アイマスクを取ってください。いま鳴らしたのは、サボテンの莖ではなく、透明の筒になって中が見えないんですね。中が見えなくて振っていると神秘的な感じがしますが、これは中が見えるので「引っかけながら落ちているのか」とわかります。さて、わかって聴くのと、わからないで聴くのと、どちらがよいでしょうか。見えないと、どういふものをどうやっているのかがわからない。そこで今日の二つ目、想像をふくらませるということが、できるのではないかと思います。

見えている、見えていないで 「匂い」に違いはあるのか

またアイマスクをしてください。見えている状態で匂いを嗅ぐのと、見えていない状態で匂ぐのとで違いがあるか、実際にやってみましょう。これは塗香といって、手に塗るタイプのお香です。いまでも写経をするときに、手を浄めるという意味で使ったりします。

アイマスクを取ってください。いまはアイマスクをしていたので、わりと匂いに集中したと思います。見えていたら、僕が手を振って匂いを広げているのが気になって、あまり匂いに集中できなかったと思います。今日まちに出て、きつといろいろな匂いがあると思います。目というのは便利ですから、見えていると視覚情報に気が向いてしまいます。アイマスクをしたときは、匂いや音にすごく敏感になると思います。そういう発見をしてください。視覚を使わないと、日常とは異なる角度で感じられるものが多いということに、気づいていただくと嬉しいです。

「触る」とは、手と頭を動かし 情報を集めて考えること

僕は博物館でも触るということをよくやっています。今日は、ケニアの動物の形をした木の置物と動物の触る絵本をもってきました。答えがわかってもしないでください。それでは、アイマスクをしてください。目隠しをしているので声を掛け合って手渡してください。これもひとつの経験です。今日もペアでまちあるきをするときに、アイマスクをする側、しない側で交互に代わりますが、そのときに声を掛け合う。コミュニケーションの原点ですが、敢えて言葉で説明しないといけないことも体験してください。

いまは見ないで触っていますが、見ればすぐに答えがわかります。触ると答えがわかるまでに時間がかかる。今日は普段と違う体験をするので、答えがわかる、わからないは二の次です。これが何かということを考えながら想像してください。全然わからなかったとか、木の動物の手触りとか、

そういうものは意外と記憶に残ると思います。視覚は便利だけれど、入ってくるものをキャッチすることになりがちです。触る場合、自分で手を動かし、頭を動かして情報を取りに行っているのが記憶に残ります。ここでは自分で情報を取って考えてみることを大切にしてみましょう。視覚よりも情報は少ないぶん、想像と推理を働かせる。そういうことができると、普段と違う体験になるのではないかと思います。

それでは、アイマスクを外してください。触ってわかりましたか。ゾウはわかりやすいですが、カバは難しいですね。答えがわかるのは気分がいいと思いますが、視覚を使わないで得られた情報から、考えてみることを大切にいただければと思います。

見ないで「食べる」 ハラハラドキドキを楽しもう

今日はフルーツ飴をもってきました。普段は、赤いからイチゴ飴、緑色だからメロン飴と、見て判断しています。袋には何飴かと書いてあるので、そう思って舐めるからそういう味がしますが、アイマスクをしたらどうでしょう。この実験は意外と当たらないです。いかに人間は視覚に頼っているかがよくわかります。

さあ、始めましょう。アイマスクをして飴を口に入れてください。自分が舐めている

のが何味か、味覚だけで推理してください。それからアイマスクを外して確認してください。半分ほどの人が当たりますが、今日は五感に敏感な人が多いようです。飴を舐めるのも、こういうゲームをやってみると面白いです。視覚を使わずに感じてみる時間を大切にいただければと思います。

イギリスへ出張した際に、ロンドンにある暗闇レストランにいきました。暗闇の中でいろいろ体験するのが世界的に人気があって、そのひとつにレストランがあります。真っ暗な中で食べて、その後に写真で食べたものを確認するという仕掛けです。

僕は普段どおりですが、ほかの人たちは顔が見えないのでコミュニケーションが変わります。人間は不安になると話すので、うるさいぐらい自分のことをしゃべります。例えば、ワインを手渡すときも「これはワインですよ、ワインですよ」と声を掛け合います。僕も行くまでは、食べるときは見えたほうが美味しいだろうと思っていました。しかし、一緒に行った仲間を観察していると、視覚を使わないことによってコミュニケーションが変わるし、わからないまま口に入れるので、「何だろう? 何だろう?」という感じでハラハラドキドキしながら食べるのは、普段と違います。今日は、これからすごく美味しいものを食べさせてもらえたいと思いますが、見ないで食べるということを楽しんでください。



ブラインド・ランチ

3月24日(土) ● 12:00~13:00

料理提供: EAT & ART TARO (アーティスト)

視覚を使わずに「触る」「聴く」「嗅ぐ」を経験しました。いよいよ「食べる」を楽しみます。参加者全員がアイマスクを着用しての「ブラインド・ランチ」。すみだ北斎美術館にちなんで、江戸料理を提供しました。木の小さな箱に入ったものと、竹の皮にのったもの。皆さん、何を食べているかを探りながらのランチタイムになりました。

皆さん、
何が入っているか
わかりますか？



Taro

今日は皆さんアイマスクを
されているので、
色合いはなくてもいいかと
思って、煮しめなどの
渋い料理が出ます。

柔らかさや
硬さなど、ひとつ
ずつの野菜の味が
印象に残りました。

ネギが嫌いなので
入っていたらどうしようと、
実はハラハラしていたんです。
しかし、ネギがなかったので本
当においしくいただけました。

一番左が
カツオのたたきの握りで、
その隣はマグロのづけの
握りです。同じ赤身な
ので味がちがいですよね。

飴もはずれたし、
食べ物も2品間違えました。
今まで目で食べていたのだと
思いました。目からの情報は
多いのだとつくづく
思いました。



何を食べているかわかりませ
んでしたが、シイタケが嫌い
なので「これは絶対シイタケだ！」と
すぐわかったんです。見えな
いけれどシイタケだけ残して
完食できたこと、すごく誇
らしかったです。

私もシイタケ嫌い
なんです。でも20年ぶり
にシイタケを食べたら、
すごくおいしかった。
超えさせてもらいました！

デザートに桜餅を
用意しました。テーブル
に置いたときから、桜の
香りがしたのではないかと
思います。

デザートは最後
にと思っていたのに、桜餅
をパクッと口に半分入れ
たところで気づきました。
戻すか戻さないかですご
く悩んだことが、残念な
ところでした。

視覚を使わないまちあるき

「点」の準備体操

3月24日(土) ● 13:00~13:30

指導: 広瀬浩二郎

視覚を使わないまちあるきは、ペアの人に手引きしてもらいながら行うので、お互いの信頼関係をつくるのが大事。そのための準備体操をしました。右手と右足を出して、肘と手首の真ん中ぐらいを合わせます。意識するのは、この触れ合った点は動かさない。触れ合った点から相手の動きを感じます。



カッコいいデザイン!
触る時計。広瀬先生
のお気に入りです。

おおお、
カブよい。



Hirose

目を瞑って、
相手を信頼して触れ合
った点を意識すると、け
っこう大胆に動けたの
ではないかと思えます。

点でコミュニケーションし
たら、初めて会う人なの
にすごく親しくなった気
がして、信頼しきっちゃ
いました。

なぜ準備体操をするか
というと、この触れ合
った点で、お互いにコ
ミュニケーションする
ということです。

点から、
相手の動きがよくわか
る。話しているみたい。
とっても不思議!

手をはなしちゃ
だめなんだよ。



右足を前に出して、
両手を振り上げる。
その手は宇宙まで伸び
ている。そんなイメージ
を持ってください。

まるでダンスみたい
で、すごく面白いです。
会社の研修として
やってほしいです。

本来なら見えないはず
の知覚の力点のような
ものが、具体的に見え
てきました。

右左に曲がるぐらいは、
いわなくても動きでわか
ります。危ないのは段差。
必ず声を掛けます。

さあ、でかけよう!

3月24日(土) ● 13:30~14:30

「無視覚流」両国まちあるき

ガイド: 北斎通りまちづくりの会

いよいよまちあるきです。実際に外へ出ると、歩くのは怖いです。ぜひ、準備体操で仲良くなったペアを信頼して、まちあるきを楽しんでください。視覚に頼らない、視覚を使わないことで得られるものを、みんなで楽しく体験しましょう。「北斎通りまちづくりの会」の方が案内します。3つのグループにわかれてスタート。ペアでアイマスクをする人とならない人が途中でわかります。どんなことを発見し、何を感じるでしょうか。



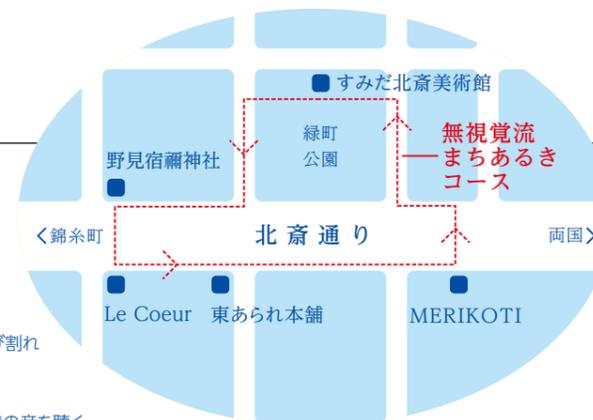
新横綱が神前で土俵入りを披露するため、地面がひび割れたという。



◎ コースのポイント

- 野見宿禰神社: 社殿扉の梅、地面のひび割れ
- Le Coeur: 店内のパンの香りを感じる
- 東あられ本舗: 桜の季節のおかきを試食
- MERIKOTI: 布草履の紐に触れ、編み機の音を聴く

右回り(グループ1・3)と
左回り(グループ2)でスタート



めっちゃ面白かった!
なぜか頭がスッキリしている。

贅沢をいえば、もう一周ぐらいできたらいいですね。アイマスクの交換を1回だけでなく、もう1回あるとまた違う経験になると思います。

まちや店の全体を把握するのは視覚が目瞭然ですが、視覚を使わずに情報を積み上げていくというのはパズルを組み合わせるようなものです。難易度は上がりますが、知的な作業として楽しめると思います。

相手を信頼していれば、歩いているときに全然怖くありませんでした。

初対面のペアで呼吸を合わせることができて、とても楽しかったです。

アイマスクをしてまちを歩くと、人と会話するのがすごく楽しくなるのを感じて、新しいコミュニケーションの楽しみ方を感じました。

横断歩道が怖かったのですが、公園で遊ぶ子供たちの声がいつも聞こえている方角から聞こえた時、すごく安心しました。

アイマスクが気持ちよかった

Hirose
神社で敷居をまたぐなど、かなりハードだと思います。今日は皆さん、上手に案内して歩いたので、よかったです。

視覚に頼らず、眠っている感覚を呼びさます重要さに気づきました。



↑ 野見宿禰神社



↑ 東あられ



点字ブロックが歩きづらかった。



↑ Le Coeur



↑ MERIKOTI



点字ブロックがあるので、安心して歩くことができました。

点字ブロックが気になるというご意見がありました。確かに客観的に考えると凹凸だし、邪魔になるのは間違いないけれど、それを頼りに歩くということもあります。捉え方はいろいろあります。

アイマスクをつけて、まちの音がとてもよく聞こえたので驚きました。

アイマスクをして、まさに視覚障害者の見方を身に付けていただくという意味がありました。

もっと歩きたかったです。

一緒にいる人との関係性が変わっていくのが、とても面白かった。

メリヤス機の音が新鮮でした。



いろいろな音が無自覚にどーっと入ってきました。いつもは取捨選択して聞いていることがわかった。

車いすには段差がない方がいいけれど、視覚障害者には段差があった方がいい。段差がなくなると、歩道を歩いていて車道にでってしまうことがあるので。

階段が思ったよりも怖かったけれど、ペアの方が言葉で伝えるのが上手く、言語化することの力を感しました。

「感覚をひらく・想像をふくらませる」イベントの2日目は、すみだ北斎美術館で「対話型鑑賞」を行いました。北斎の魅力を伝えたい。でも視覚障害のある人は、どのように浮世絵と向き合うのでしょうか。今回は触れる資料も用いながら、描かれている情景や印象を言葉に置き換えて、より深く、想像力もたくましく、北斎がとらえた森羅万象に迫ります。自らの感覚を研ぎ澄まし、他者の感性を受け入れながら、お互いの差異を超えたコミュニケーションをはかります。

「対話型鑑賞」

3月25日(日)

「無視覚流鑑賞の極意六箇条」

テキスト：広瀬浩二郎

無視覚流とは「思い遣り」である。

創る人(制作者)・操る人(学芸員)・奏でる人(来館者)の思いは、目に見えない。

さまざまな思いが交流・融合し、「思い遣り」が生まれる。

視覚は量なり、されど大量の情報には、かならず死角がある。

視覚はスピードなり、されど迅速な伝達は上滑りで、記憶に残らない。

無視覚流は「より少なく、よりゆっくり」を原則とし、作品の背後に広がる「目に見えない世界」にアプローチする。

さあ、視覚の便利さ(束縛)から離れて、自然体で作品と対峙しよう。

みんなの「思い遣り」は、視覚優位・視覚偏重の美術鑑賞のあり方を改変し、新たな「動き」を巻き起こす。

1. 手を動かす = まずは触角(センサー)を伸ばして感じてみる。
2. 体を動かす = 心身の緊張をほぐし、感性を解放する。
3. 頭を動かす = 触角がとらえた情報を組み合わせ、作品の全体像をイメージする。
4. 口を動かす = 作品の印象、感想を声に出し語り合う。
5. 心を動かす = 作品・他者との対話を介して、自己の内面と向き合う。
6. 人を動かす = ミュージアムが発する能動・感動・連動の波が社会を変える。

どう伝える、どう語り合う。 葛飾北斎の8作品

対話型鑑賞は、午前と午後の2回行いました。5つのチームにわかれ、ファシリテーターが1名ずつ進行役に入ります。富嶽三十六景を中心に各チーム3作品を鑑賞。有名な「神奈川沖浪裏」は3Dによる半立体があり、エンボス加工の触察画も補助資料として用いました。

参加者

3Dを触ると、富士山が意外とちっちゃい。

ファシリテーター

「この水車の場所はどこでしょう？実は渋谷なんです」と話すと、一体感がうまれます。



神奈川沖浪裏

「のけぞっている姿勢は、木を落としているんじゃないか、上げていないじゃない？ここは木場なんじゃないの？」晴眼者が気づかないことをイメージと理論から導き出している。



本所立川



東海道品川御殿山ノ不二

季節がぴったりだったので、桜のほんわかした空気感を「いいですね、この時期は」と共有できた。



諸国瀧廻 下野黒髪山きりふりの滝



隠田の水車



深川万年橋下

生活の様子と、川から見上げる視点の構図が面白い。

潮干狩り図

広瀬先生は「絵画の観察」は「人間観察」である、とおっしゃいました。私もまさしくそうおもいました。

潮干狩りは自分が体験したことがあるとイメージが伝えやすいです。



推定復元 須佐之男命厄神退治之図

人がたくさん描かれていると、言葉にするのがむずかしい。

目が見えなくなって、 絵を見るのが好きになりました。

3月25日(日) ● 第1回 11:00~12:30 第2回 14:30~16:00

アート・コミュニケーターのファシリテートで行う「対話型鑑賞」のプログラムです。
視覚障害者も交えた5~6名のグループで、それぞれの経験知が言葉となって交差します。
「目が見えなくなって、絵を見るのが好きになりました」。今回の「対話型鑑賞」の中から発せられた言葉です。
それを聞いた参加者が「とても感動した」とアンケートに書いています。
今までとまったく違う絵の見方や、大勢で鑑賞することの素晴らしさもこのプログラムの魅力です。

立体3Dコピーをもっと増やしてほしい。

「富士山」を絵で見ていると大きいイメージのままだが、目を閉じて3Dの半立体を触ると、全体の中でとても小さいということを確認する、面白い作用があった。

もう少し簡略化した触図が必要かと思えます。

視覚障害があっても一緒に作品を楽しめたのは、とてもよかったです。

「神奈川沖浪裏」の作品を見た人が、視覚障害のある方の手をとって、触覚で波の動きを伝えていた。言葉だけでは説明しにくいところを、触ることで伝えられたと思う。

ファシリテーター

参加者

年齢、人生観など、個人のポキャブラリーによって、見え方が違う。参加者の年齢に幅があると深く楽しめると思います。

Hirose

通常の対話型鑑賞では「説明しない」ことが大原則だと思うが、視覚障害者は客観情報(何が起きているか)が不足した状態で参加しているので、ある程度、客観的な情報を伝えてもらわないと対話にならない。

説明しようとする、細かいところまで言語化します。新しい視点で見ることができました。

見えている人のほうが先入観をもって場面を語っていたところ、状況の解釈が違うのではないかと指摘を受けて、大きな気づきとなった。

ひとつの絵からたくさんの会話がひろがって、面白かったです。

視覚障害の人にもっと参加していただき、感じたことを聞きたい。

北斎はあの絵で何を伝えたかったんだろう、ということをもっと尋ねてみたかった。



いろいろな人の視点で絵が立体的に浮き上がってきた。

みんな気づくところが違う。

言葉を磨くことによって、豊かな鑑賞につながることを実感できた。

「自分の中で絵を描くように理解している」というお話に感動しました。

言葉にすることで、自分の考えや感じ方を整理する楽しさがありました。

視覚障害者の方が、皆の言葉を聞いて自分の中で絵を描いていくように見ているということだったので、先に基礎情報を説明してから対話を進めた。

複数の人から絵の特徴を聞いたので、絵の想像がしやすかった。

作品を理解するという時間と、共有する時間に差が生まれてくる。そこを融合できるやり方はマニュアル化できるようなものでもなく、経験を重ねながら考えていきたい。

もう少し少人数で体験したかった。距離感が縮まるのに時間がかかり、なかなか言葉が出なかった。

女性の足がなまめかしい！など、体験として残って面白かった。

実際に視覚障害者の方と共有するためにどのようにすればいいか、までは足りなかったもので、次に続くことを期待したい。

視覚障害者がファシリテーターをする、あるいは見える人もアイマスクをして対話型鑑賞を試みるというの、ひとつの手段かと思う。

風景画であれば、視覚経験や自らの体験からイメージしやすいが、「須佐之男命厄神退治之図」は、架空の物語なので、なかなか想像しにくい。他の人がいろいろなことを言うてくれるので、トータルとしては面白いが。

補助資料としての触図は、客観情報を把握するときに使うのは有効だと思うが、自由な発想を重視するならば、言葉だけでやるほうがイメージーションは広がる。

地域と一緒につくったイベントが 多くの人の感覚をひらき、 想像をふくらませる楽しみにつながった。



桜が満開となった3月24日・25日の2日間にわたって行われた
～「無視覚流」両国まちあるきと、対話型鑑賞で楽しむ北斎～。
このイベントには地域のお店や、すみだで活動する人たちの協力和
ネットワークが力を発揮し、参加者の感覚をひらかせる
新鮮なイベントになりました。スタッフとして参加した
一人ひとりにとっても、すみだ北斎美術館を舞台とした
意義ある事業に関われたことで、多くの気づきを得られました。

暗闇レストランは
初体験でよかった

◎ブラインド・ランチ

食をテーマに活動するアーティスト
EAT&ART TARO



すみだ北斎美術館で開催されるので、江戸時代の料理を意
識しました。煮しめも昔からあるような野菜を使いました。また、江戸時代のお寿司はシャリがとて大きかったそうです。それを半分に切って提供していたそうで、いまでも回転寿司では2カン乗っています。今日召し上がったお寿司は普段よりちょっと大きいと思います。



◎まちあるきガイド

地元の歴史に詳しいメンバーによるツアープラン考案と
ガイドを担当。
北斎通りまちづくりの会
岡本雅義、小島みどり、富岡達郎



まちあるきの際にお配りしたものは、日本で初めてつくられた
パンです。江戸時代、亀沢に住んでいた江川太郎左衛門が
作っていました。世界遺産になった反射炉やお台場も造った
人。ジョン万次郎も配下にいました。ここには北斎だけではなく、
すごい人たちがいました。ほかに、両国の匂いのもとを
おみやげに持ってきました。お相撲さんの鬘付け油です。

◎記録撮影

カメラマン 馬杉真理子

写真が大好きで、風邪をひいて寝込
んでも寝床でシャッターを切るほど。
墨田区のイベントで写真を依頼される
ことも多く、幅広いジャンルの写真を
撮っています。

◎運営

すみだクリエイターズクラブ 三田大介
スタッフ 猪股春香、近田明奈、塩見佑子

地域の福祉作業所とクリエイターたち
とのコラボによる商品開発プロジェクト
「すみのわ」に参加。今回は障害者福
祉×アートの分野で活躍するお三方と
ともに運営に携わりました。

満足度が大きい。
さまざまな体験を
1日でやってしまった
のは素晴らしいです。

楽しかったです。ファシリテ
ーターの方の進め方も、とっ
ても素晴らしいと思いました。
ありがとうございます。

楽しかった！！！！
パンがおいしかっ
た！！！！

だんだん視力がなくなって、
不安感を持って暮らしていま
しが、今日のような楽しい企画
に参加させていただいて、心が
のびのび自由になれました。



◎対話型鑑賞ファシリテーター

作品と鑑賞者のコミュニケーションをサポートします。
鑑賞コーディネーター：越川さくら他、
ファシリテーター7名

対話型鑑賞は、ファシリテーターの存在がとても重要です。
美術知識のある人ない人をはじめ、それぞれの人生経験
を持ち寄りながら鑑賞していくため、対話を引き出すための
進行が求められるからです。1回目を終った後に振り返り
を行い、2回目の対話型鑑賞会ではより充実したプログラ
ムになりました。

見えているときも
両国に来たことがなかった
ので、まちの雰囲気や匂い
を感じられてよかった。

◎協力店舗



Le Coeur :
いつも周辺をいい香りにするパン屋さん。
お惣菜も人気です。

東あられ本舗 :
1910年創業の老舗あられ屋。
手揚げあられの北斎揚げが人気です。

MERIKOTI :
布ぞうり専門の工房ショップ。
外国人のお客さまが多く訪れます。

◎運営補助・ まちあるき補助

ひらがなネット株式会社
戸嶋浩子、吉澤弥重子、井口明子、
清水エド、神保奈々瀬、板津有桂

すみだ北斎美術館と同じ町内に事務所を
構えています。外国人と日本人と一緒に
歩く「みんなで散歩」を毎月1回開催。
その数は130回近くになります。いつも
の散歩とは違いますが、スタッフ一同貴
重な体験ができ感謝しています。